


一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

令和元年11月13日

山北町議会議長 府川 輝夫 殿

受付番号	第2号	質問議員	13番	石田照子	
件名	1. 箱物行政への考えを問う 2. 台風19号の被害を教訓に 3. 河村氏ゆかりの地として				
要 旨					
1. 箱物行政への考え方を問う 近年、少子高齢化が各地で問題となっているが、当町も例外ではない。生産年齢人口の減少と共に、今後、町税の大幅な増収は見込めない。半面、老朽化した公共施設の維持管理費は財政を圧迫していくことが予想される。そこで、思い切った考え方の転換が必要と思い質問する。 1) 近隣で共有できる施設は、あえて作らないという考え方へシフトし、将来的に残すべき施設、広域連携できる施設等区分けし、計画的に運用していくべきではないか。 2) 高松分校・清水小学校跡地、統廃合後の三保小学校の跡地利用についての考えを問う。					
2. 台風19号の被害を教訓に 台風19号は広範囲に大きな爪痕を残した。当町でも皆瀬川浄水場をはじめ、町道・林道・農道や多くの施設等に大きな被害が出た。その間、職員は身を粉にして復旧に当たっていただき、心より感謝申し上げたい。予想外の被害の大きさに対応も大変であったと思うが、今回の町の動き、職員の行動等総括し、更に大きな災害に見舞われたときに迅速に組織が機能するよう、台風19号対応での問題点を洗い出し、次に生かすべきと思い質問する。 1) 避難所となっていた清水支所に土砂が流入する被害が発生したが、この場所は、以前から土砂災害警戒区域であった。他の避難所と					

なる施設にも雨漏りが発生するなど問題が生じた。全避難所の危険性や、雨漏り等の点検、避難路の危険性についても再点検をし、思い切った見直しも必要ではないのか。

- 2) 今回、一部の避難所の開設であったので、自分の指定された避難所が開設されない町民の避難行動に迷いが生じた。速やかな避難行動につながるような周知方法や、防災無線の放送内容の検討も必要ではないのか。
- 3) 避難所解除後にも避難していきたいとの希望があれば、避難所を開放もしくは、代替え施設を紹介するべきではないのか。
- 4) 災害時の町民からの相談は、大きな不安を抱えている。途中経過でもよいので、速やかな回答や対応をするべきである。
- 5) 避難生活が長期化した場合を想定して、女性用の更衣室や授乳室等の速やかな設置。下着等の配布場所にも配慮が必要である。
- 6) 被害に見舞われたふれあいビレッジ、中川水源交流の里施設の再建は、利用者の安全を担保した上で慎重に考えるべきである。

3. 河村氏ゆかりの地として

河村城址保存会では、河村氏ゆかりの子孫との交流を毎年図っている。河村城まつりも年々工夫を凝らし盛況となっている。そこで、町内外に発信する手段として、小田原城の出城としての役割を担っていた山城として、5月に開催される小田原北条五代祭りに参加させていただいたらどうか。町内の子どもたちが参加することで、歴史への興味、郷土愛を深める絶好の機会となるはずである。

以上